



会誌 第20号 2013年 5月発行

発行者 宮澤とよ美 編集者 会誌編集委員会 連絡先 042-491-3616

変わり行く清瀬橋付近（現在）



いよいよ空堀川・柳瀬川新合流点工事が完成しますと、清瀬橋付近も26年度から最終工事に入り、現合流箇所^の落差工に魚道の取り付けと、旧柳瀬川跡地（約6,000㎡）の整備となります。現在旧清瀬橋として活用されている左側の橋も、老朽化ということで、架け替えられることもなく取り外され土手となります。河床の通行用に4.5m巾のカルバートが取り付けられますが、上・下流が一体化し、よりよい緑の水辺となることを願います。（写真と文：宮澤とよ美）

目 次

柳瀬川・空堀川新合流点工事完成に向けて	宮澤 とよ美	2
自然エネルギー&市民電力 デンマーク視察(ドイツ編)	小西 美香	5
白子川見物会に参加して	田中くに子	7
野川を歩く～都市河川の再生を考える～に参加して	大谷 恒子	9
清瀬の水事情物語①	小西 一午	11
河川と自然シリーズ⑧	田中 くに子	12
毎日が日曜の有名人	中村 栄二	13
雑学(五回目)	田島 通夫	15
川と温泉③(玉川温泉)	木村 芳信	17
三郷橋植栽地1年を経て	宮澤 とよ美	18
第15回定例総会の報告	大谷 郁夫	19
講演「巷説下宿四方山譚」	金内 彰	23
活動記録(2013年1月～3月)	大谷 郁夫	24
事務局だより	大谷 郁夫	25
編集後記	金内 彰	25

柳瀬川・空堀川新合流点工事完成に向けて

宮澤 とよ美

平成 21 年度に石田橋が完成、続いて平成 23 年度境橋が完成。平成 24 年度いよいよ新合流点工事を 10 月に着手、1 億 2 千 5 百万円の工事予算で合流河川の左岸が 3 月末には出来上がりました。

これまで長きに渡って願ってきたことは、都市河川に希少となってしまった、天然護岸と豊かな河畔林をもつ、旧川となる柳瀬川を残すことでした。平成 23 年 1 月から新合流点工事に関して 3 回行われた地域住民との懇談会では、その設計が高水敷を持つ複断面が提示されたまま終わりました。最後の懇談会の席上で、最終まとめとして、「河畔林を残した場合、洪水を阻害することのない現柳瀬川への流下適正水量及び河川構造について、水理模型実験が行われると良いですね！」と土屋座長の懇談会を締めくくご挨拶でした。これまで毎回出していた提案書を、北々建にお呼び出しを頂いてことごとく否定されていた当会にとって、座長からそのようなご提案を頂けることなど夢のまた夢で、希望がつながりました。

旧柳瀬川の流れをそのままに残す意義が、管理通路や拡幅工事で今の河川環境を破壊したのではまったくその意味を失ってしまいます。なんとしても単断面構造にして、河川巾を狭め、現在の河川環境・景観を保ってこそその提案であり、活動です。

その思いがやっと認められたのは、北多摩北部建設事務所に西村課長が就任されてからです。これは当会と市行政の合意事項でもあり、緑を重視して下さいます先の星野市長の大変深い構想でもありました。任期最後の日まで、現渋谷市長と共に現場河畔におみ足をお運びくださり、ご尽力賜りましたこと感謝あるのみです。

平成 25 年度は一番大事な分流箇所工事となります。3 月 22 日、すでに設計図が完成されていることを予測して、柳瀬川ネットの鈴木氏と北々建西村課長をお尋ねしました。その場でまだ公表出来ませんと、一面朱の入った図面をお見せいただきました。「高額で行われた水理模型実験の結果は生かさなければなりません。その上で可能な限り自然度のある工法をいま考えています」と苦慮のご様子でした。

その時点で形となってイメージできたことは、

1. 水理模型実験時、現柳瀬川から直ちに流下してくる水流が新分流点の護岸に当たって盛り上がり、流れの乱れが生じる。これを防止できる形状として、様々な実験の結果、旧川への流入口を狭め、護岸の高さから最も強い水衝部に向け、なだらかな傾斜で出っ張りをつけます。その形状が最も難題、違和感なく自然に取り込めるよう自然石を使い工夫する。
2. 新合流点箇所上・下流はコンクリート材にて河床固め。旧川柳瀬川右岸は、流

芯が右岸よりとなるため、あらかじめ洗掘に耐えるよう、矢板など打ち込みしっ
かりした護岸とする。

3. 新川入口には、低い堰を置くが、土砂で埋まってしまう可能性が大。自然石を
使い、景観に配慮をする。
4. 柳瀬川と空堀川の高低差 1.3m に対して、これまで工事区間が短いため直壁の
落差工しか方法はありませんと説明されましたが、生き物の遡上に配慮をし、な
だらかな斜面にハーフコーン型を検討中。
5. 新合流点左岸はできるだけそのままに、水衝部の洗掘が予測される場所は、
あらかじめ礫をおき、上に蛇籠などで保護。時を得れば土砂などが積もり違和感
はなくなるのでは。

説明は以上です。

まったく不可能と思われました柳瀬川旧川の存続、天然護岸・河畔林の保存、単断
面による河川巾の縮小（現在の空堀川と同じ 24m から 17m へ、河床巾 13m に）こ
れにより工事後、かなりの樹木植栽余地が取れることとなります。

ここへの植栽は、24 年 10 月 18 日と 25 年 3 月 19 日の 2 回にわたり、新合流点に
関わる市長懇談会において市行政と合意した植栽樹木、方法について下記のようなお
願い書を北々建に提出してあります。

~~~~~  
都北多摩北部建設事務所工事第二課課長 西村行正 殿

川づくり・清瀬の会 代表 宮澤 とよ美

平素大変お世話様になりましてありがとうございます。

新合流点の工事も 24 年度分新河川左岸護岸工事が終わり、河川用地内の余地がはつき  
り見えてきました。24 年 11 月初旬清瀬市都市整備部長黒田氏から、余地への環境に合  
う樹木植栽と、植栽樹木のリストのご相談がなされたと思います。質のよい河川景観を  
求めてゆきたく再度下記の通りご提案させていただきます。どうぞよろしくお願ひ申し  
あげます。

### 植栽樹木についての提案

旧川に沿う河畔林は、エノキ・ムクノキ・ケヤキの高木で構成、その中に中里緑地に  
共通のウミズグサ・イヌザクラ・アカシデ・サイカチの高木混生。又、その下に、  
イヌガヤ・シラカシ等常緑樹木が見られます。

対岸と一体化した景観を保つために、エノキ・ムクノキ・ケヤキを主体とし、特にオ  
ムラサキの繁殖を考えております清瀬市のために、中央にエノキを多く植栽。クヌ  
ギ・コナラの混生、その中にイヌザクラ・ウミズグサ・ヤマザクラ等少数本高木。  
ネムノキ・コブシ・ゴンズイ・エゴノキ等の花木も林縁に植栽下さい。

植栽地は、新川左岸と右岸の余地。明薬大から柳瀬川合流点までの右岸管理通路フェ

ンス際にヤマボウシ・コブシ・キンモクセイ等の維持管理の少なくて済む樹木を提案、隣接します住宅の了解が得られますようご配慮お願い申し上げます。又、樹木保護のために管理通路は植栽地内を避けた設計をお願い申し上げます。

平成 25 年 3 月 22 日

~~~~~  
この話し合いをして間もなく、7月迄はお世話になれると思いましたが工事第二課課長西村氏の本庁への職場移動、合わせて相馬課長補佐の退任。守屋設計係長の北々建からの移動、これまで関わってくださいました方々皆さんが工事途中で交替となりなりました。今年度から新しく赴任くださり、新体制となりました工事第二課の皆さまに大きな期待を持ち、お願いをして行きたいと思えます。

しかし、これまで維持管理係長の牧野氏が設計係長になり担当して下さいます。牧野氏の河川の安全性についての思いは深く、河川に向かい合う姿勢には敬意を表します。その熱心さをもって、新しい河川環境が清瀬市の誇りとなり、次世代により安全で美しい河川景観を送り次ぐことが出来ますよう心から願っています。

24 年度護岸工事の様子



新合流点工事現場
(2013.3.14 撮影)



左岸蛇籠等で保護される箇所
(2013.5.11 撮影)



合流で変化が予想される左岸
(2013.5.11 撮影)

自然エネルギー&市民電力 ドイツ・デンマーク視察(ドイツ編)

小西 美香

2013年2月3日から10日にかけて、生活クラブ生協首都圏4単協主催のスタディーツアーに参加しました。

生活クラブ生協では、2012年5月、秋田県にかほ市に風車を建設し、風車で発電した分の電力と環境価値をPPS（特定規模電気事業者）から電力とセットして「グリーン電力」というかたちで買い、首都圏にある生活クラブ4単協の41事業所で使っている電気（年間670万キロワット）を自然エネルギーで賄っていくという、共同事業方式による新たなエネルギーシフトに挑戦しています。



(ドイツ都市部のハンブルグの丘に建つ風車)

これまで生活クラブ生協は、生産者と共に、共同購入を通じて国内自給率の向上や遺伝子組み換え食品への反対運動、都市近郊の酪農や農業を進める運動など、自分たちの手で食を自主管理すること＝「食」の自治をすすめてきました。

エネルギーの問題も食と同じ、自治の問題です。市民ひとり一人が、知識をもって自ら使うエネルギーを判断し、自ら選択することが重要です。私たちひとりひとりの暮らし方が、未来を変える力を持つこと、そのことを市民の側からすすめていくことです。

今回のツアーには、環境エネルギー政策研究所の山下主任研究員をはじめ、エネルギーに詳しい研究者の方々通訳を兼ねて同行して下さるといふ、贅沢な内容でした。

まず、ドイツでは山下さんの師事するベルリン自由大学のミランダ・シュラーズ教授にお話を伺いました。

ドイツにおける再生可能エネルギー政策への流れ

ドイツ国内では1970年代から原発反対運動が起きており、酸性雨問題などもあり、国民の環境への関心が高い国といえる。また、チェルノブイリから700Kmのため、原発事故後は牛乳が販売されないなど、生活への直接的影響を国民が実感した。事故後、農業者を中心に核燃料サイクルや原子力廃棄物への反対運動が起き、1991年からは固定価格買い取り制度が導入された。

ただ、京都議定書によるCO₂削減目標を達成するためには、原発がないと無理という世論もあり、この20年の間に、原発容認と反対の間で政権が揺れ動いた。2010年10月には、2020年までにCO₂-40%、2050年までには-80%の実現を目標とし、そのための段階的、分野別（電力、生産、運輸）の具体的目標を設定。その前提として原発の稼働を8～14年の延長を決定した。

しかし、2011年3月フクシマの事故を受け、物理学者でもあるメルケル首相により「安全なエネルギー供給に関する倫理委員会」が招集され、ミランダ教授は委員として参加。倫理的には原発は即時停止であると誰もが思うが、現実的に原発の稼働停止をいつにするかを定めるため議論し、10時間の公開討論会を経て、2週間後にはレポートを提出。「ドイツの将来のエネルギー転換のための共同プロジェクト」も立ち上げられた。委員会では、原発自体の安全性、廃棄物の問題を中心に議論し、事故は不可避ではないが、他のエネルギーより危険であり、より安全なエネルギーがあることを確認。ただし、温暖化への対応もすべきであることから化石燃料を使うことは避けなければならないこと、また、次世代へ廃棄物を残すという問題について十分な議論がされた。その結果、将来の新しい産業になるということからも、再生可能エネルギー普及政策とエネルギー効率性政策を同時に進めること、原発は古いものから撤退し、2022年までに全廃することを決めた。

ドイツは、民主主義の深い国

ドイツ人は上からの押しつけに従わないという、気質がある。国内にはたくさんのNGOがあり、地域のネットワークを作り、政治的な対応を行っている。

風力はサイズの大きい(80m)ものを市民が協同組合をつくりネットワーク化し、効率性を高めている。20年前から、野鳥などへの影響、風、景観の調査が行われ、風力発電に適する地域が研究されてきた。そして地域を決定する際には、様々な団体を招いて議論をし、進めてきた。また、学者も1970年代から市民の意見を取り入れるようになってきている。

各州で独自のエネルギー政策

ヨーロッパ27か国での再生可能エネルギー比率は、2012年で12.5%となっており、ポルトガル、デンマークは輸出国となっている。EUができたことにより、送電網が自由化され、国内4地域で市民が電力会社を作っている。16州からなる国内では州単位でエネルギー政策をもち、南部の州は太陽光、バイオマスなどを組み合わせて、供給の安定性を図り、北部から電力を購入しなくて済むことを目指している。そのため高压送電網は不要になっている。

雇用の創出

ドイツでは、再生可能エネルギービジネスに38万人の雇用が生まれるとみている。そして、国内の面積比25%の地域で、100%再生可能エネルギーが達成できると試算されている。これは、高齢化対策、低賃金対策にもなり、資源の効率性、輸入コストの削減にもつながる。



(100%エネルギーの電車)

今後の課題

効率性の中では、エネルギーの貯蔵も検討課題であり、メタンガス、揚水、圧縮空気、水素、家庭にある自動車、冷蔵庫、洗濯機なども対象となっている。太陽光 5%、風力 11%で原発 8 炉分、750 万キロワット(100 万世帯分)の供給ができているが、これに伴い電力価格は 2005 年と比較するとキロワット当たり 5 倍以上 2011 年 5.4 セントと なっており、これも再生可能エネルギーへの反対派の理由となっている。

ドイツでは、市民が消費者の立場では「電気は選んで買うもの」となっていること、一方で供給者の立場にもなっていること、まさに自給自足＝市民自治を目指し具体的に 進んでいることが理解できた。

白子川見学会に参加して

田中 くに子

〇川でつながる発表会

期日：平成 25 年 2 月 10 日

場所：練馬区立南小学校

この発表会の中で、現地見学会として、午前 11 時 05 分から練馬区の白子川の見学 会がありました。

以前から都市の中の河川としてのこの川を、一度見たいと思っていたので参加いたし ました。講師は、白子川源流、水辺の会の方で（同会は設立して 11 年とのこと）月 1 回の例会を行っているそうです。

観察会の参加者が約 40 名、2 班に分かれて出発。

- ① 井頭こぶし憩いの森（面積 1,463 m²）ホオノキ、モミジ、コブシの大木などがあり、 樹木地を地主から借りて区民に開放している。

子ども達が立木で遊んだり、行事・清掃などをしている。

この場所は標高 50m で、1 箇所直径 10 cm 位の縦穴を掘り、タコ糸の様な糸に 重りをつけ穴に入れ水位を調べている。白子川の標高と同じ 10m 下に水の流れがあ る。

- ② 井頭憩いの森（2,547 m²）エゴノキ、クヌギ、エノキなどがあり、所有者から借り て、区民の方達に開放している。

憩いの森の制度は、昭和 50 年大泉町一丁目にある樹林地に、たくさんのカタク リが自生しているのが見つかったことから始まったそうだ。

この 2 つの森は住宅地の中にあり、広くはないが子供たちが自由に入って遊べる場 所であることに意義があると思う。

白子川源流までは住宅地を通り抜け、キャベツ畑を右に見て下る。農地の保全、みどりの確保では、生垣助成、沿道緑化の助成、屋上緑化助成、壁面緑地助成などを行っているとかで、緑が多い。

- ③ 白子川は1級河川で、和光→板橋→新河岸川へと続く10kmの川である。

その内練馬区内は5.8kmである。

- ④ 大泉井頭公園(5,700㎡) 白子川の七福橋から火之橋までの川沿いに整備された公園。



(白子川・七福橋)

上流域の緑橋付近は素晴らしい水辺で、西側からの豊富な湧水と川底の砂が美しく、水温が比較的低温で流れが緩やかなようです。絶滅危惧種のホトケドジョウやアブラハヤ、ギンブナ他多くの動植物が育まれている。ここから上流起点まで500mは都内でも数少ない貴重な流れの水辺環境と言う。

公園の上部は川へ下りる木道があり、市民が憩える広い場所となっている。今では子供たちと、川掃除や下水の浄化と生き物のための汚れている川底に酸素の供給をしたり、生き物の調査をしているそうです。

コイ、ホトケドジョウ、アブラハヤ、フナ、ナガエミクリ、ヒメガヤ、オランダガラシ、ザリガニ、ギンブナ、トンボ、カワセミなど水鳥の観察もできそうで楽しみな所です。

川沿いの散歩道を歩きましたが、この日は濁水期で川底が見えていたが、少し下流へ行くと湧水があり、アブラハヤが群れて泳いでいるのを観察できました。その辺りにはキャベツ畑が広がり、雨水が地下に浸透出来る場所です。

井頭橋の近くには、市の天然記念物の「マルバヤナギ」(高さ10m・幹廻り2.3mと高さ9メートル・幹廻り4.2m)の2本の大木がありました。昭和30年代までは、この場所に大泉の井頭池があったそうです。

午後の川の発表会で小学生の女の子が2人で「白子川の絶滅危機種」と一番多い生き物の発表をした中でも、このマルバヤナギの事も発表しておりました。今では幹の根元のところに子どもたちが入れる程の空洞が出来ているが、今なお元気で生き続けている人気の木だと分かりました。

松殿橋の所に水位観測所がありました。時間の関係で一部分しか観察できず、住宅街に入って学校へと帰りお昼となりました。

かつての空堀川を思い出させてくれる三面張の狭い川ですが、農地が広がったり、憩いの森や川沿いに並木があったりと緑に恵まれ、湧水のある都市河川。次は水の豊かな時期に今一度訪れて見たい場所でした。

春浅き 白子川には魚群れて

野川を歩く～都市河川の再生を考える～に参加して

大谷 恒子

4月5日(金)にミツカン水の文化センター主催の「野川を歩く～都市河川の再生を考える～」に宮澤さんと参加しました。「武蔵小金井駅」に集合、コースは朝9時半に駅から六地藏・黄金の水・小金井分水東堀流路跡→平太坂遺跡・小金井村分水、西堀流路跡・小金井の上の水車跡(梶水車)→滄浪泉園→花と緑の小路(はけの小路2号)→大城橋・西之台橋(西之台会館)→下弁天湧水池跡→前原野川橋→前原小学校南遊歩道(旧野川河道)→新前橋・旧野川合流口→丸山橋→金井原古戦場碑→小金井次郎墓→はけの道→谷口邸湧泉・ホタル水路→ハケの緑地1&平尾の坂・小金井の上の水車跡・下の水車跡(秋山水車)・小金井村分水、東堀流路跡・陣屋道→小金井神社・石臼塚→天神橋・前原遺跡→中前橋→四割堰跡→はけの小路(1号)→中村研一記念はけの森美術館→小金井新橋・新橋遺跡・野川第二調節池・野川中洲北遺跡・小金井水田跡碑→くじら山下原っぱ・くじら山→仙川小金井分水路→武蔵野小園、見えないダム・武蔵野公園低湿地遺跡・バーベキュー広場(昼食とる)→やまべ橋→野川第一調節池・自然再生事業対象地域→新しい堰・田んぼ・どじょう池→二枚橋→野川公園・ホタルの里・野川遺跡。自然観察センター・湧水広場→出山下湧泉→御狩野橋・相曾浦橋→箕輪家のわさび田・ほたるの里三鷹村・湿性花園・ちびっ子農業体験田→出山横穴群8号墓→峯岸水車の新車→大沢調節池→大沢橋→バス停・大沢コミュニティーセンター[解散]以上の順路で何か所かカットされましたが、全行程約10kmを歩きました。ナビゲータは若林高子さん(環境省環境カウンセラー)土木学会会員で、編集・著作業のかたわら「野川を清流に」の活動に参加。堀井光夫さん(エコロジカル野川の会副会長)野川の環境保全やわんぱく夏まつり等の地域活動に係るかたわら、「玉川上水に親しむ会」、「水辺緑地ウオークの会」ほか、多様な団体に所属。

●野川は、国分寺の恋ヶ窪周辺が源流で世田谷の二子玉川で多摩川に合流する20.5kmほどの川です。国分寺から小金井・三鷹・調布・狛江・世田谷と、都会での湧き水を集めて流れています。国分寺崖線と呼ばれる連続する崖からの湧き水で、中流域では川岸から水際までそのまま下りて低水敷沿いに歩くことができ、川遊びが出来るのが特徴。

●野川沿いは、縄文銀座と言われるほど縄文遺跡が連続。

●川沿いには、その昔、田んぼが拓かれていた、緩やかに蛇行した川でした。

●川霧というめずらしい幻想的な風景が、冬には観られます。湧き水ゆえ1年中16～17度の水温で、冬は外気より水の方がはるかに温かいので、風のまったく無い冷え切った朝には、しばしば見ることができます。

●また、都市河川の御多分にもれず、雨水を田畑等の大地に保水する力が無くなり、大雨の時には、橋げたまで水が上がったりして、下流の狛江は台風のために溢水し、暴れ

川と異名がつけられました。ゆえに下流域の人たちの要望により、一気に海まで水が流れるよう直線化する改修や河道変更がなされ、急な増水を一時的に貯留する調節池も造られました。野川の成り立ち、変遷、背景、そして自然と人の生活をいかに調和させるかを考え、活動を続けているボランティアの方々の努力に頭が下がる思いです。以下は、主な観察地点の解説。

●小金井村分水 1696年(元禄9)にできた玉川上水からの分水、上下の両小金井村飲用水用。残水を4~6月に田用水に使用。西堀、東堀の2流から多くの細流が造られた。

●滄浪泉園 三井財閥の波多野承五郎別宅→三井鉾山会長川島氏(故・宮本加寿子さん)の別邸で、はけの段丘と湧水を利用した庭園。1977年、高層マンション計画があったが、市民活動を通じて都の緑地保全地区になって都が買収し、庭園として保存された。



●自然再生事業 野川ビオトープ・どじょう池・田んぼ・はけの湧水 2000年「どじょう池」が造られた。はけからのわずかな湧水を生かしたビオトープづくり

(市民の提案)が10年を経て実現。河川法改正に伴って、国推進の河川環境の整備・自然再生事業「湧水を活用した湿地再生」の地として選ばれ、堰から調節池に導水して池に貯めて田んぼに流入する構造になっている。(ホトケドジョウ保全のせせらぎ) 市民活動による維持管理を目指す。

●野川公園 軍需用地から戦後、牧場・ICU(国際基督教大学)のゴルフ場を経て公園に。自然観察園(サンクチュアリ)にホタルの里が造られている。

●峯岸水車 水車は東京都文化財指定。江戸後期1808年に創設され、1969年野川改修によって160年間の稼働を停止。箕輪水車の大車に対して、大沢の新車と呼ばれた。

●箕輪家のわさび田 江戸っ子の「わさびは大沢に限る」と言われた特産地だが、今は箕輪家だけ。

●ホタルの里・三鷹村・湿性花園、ちびっ子農業体験田 箕輪家と市民団体・行政・市民ボランティアが一体になって作りあげたゾーン。

●野川大沢調節池 2000年に完成した洪水対策用の調節池(ピークカット構造)。

以上のほか、まだまだ興味深い観察地がありましたが、長くなるので割愛させていただきます。主催のミツカン水の文化センター様、ボランティア団体の若林様、堀井様には、大変貴重で興味深い資料とご説明をいただき感謝です。野川沿いの桜が大変きれいで、武蔵野公園で見たフデリンドウ(結構たくさん咲いていました)や、うっそうとした滄浪泉園、そして大沢の水車は、いつまでも記憶に残る風景でした。こんな機会を下さったミツカン水の文化センター様、本当にありがとうございました。

清瀬の水事情物語 ①

小西 一午

川づくり・清瀬の会が日頃取り組んでいる清瀬の水の問題については、柳瀬川を中心に
して市内に多く存在していた湧水や家々の井戸水等まで、深い関わりをもってきたものが
数えきれない。その事情を清瀬の水物語としてまとめてみる。

水は人間はもとよりあらゆる生き物の生命を維持する上で基本となるものであり、人は
古来から水の占有をめぐるしのぎをけずってきた。水をめぐる争いも頻発していて、そ
のため水を制するものは世界を治めるとまで云われ、又、中国の格言に「最初に井戸を掘
った人のことを忘れてはならない。」として水の最初の発見者を顕彰する風潮がある。それ
ほどまでに貴重な水であるが、それは自然の湧水にはじまり地下水の汲み上げ、それに河
川・湖沼等から、天空から降ってくる雨水に至るまでのあらゆる水の発見と、その利用法
に古今東西の人々が狂奔してきたのである。

さて本題の清瀬の水事情に移ろう。

清瀬にはじめて人が住みついたのは今から約2万年も前の後期旧石器時代に遡る。下
宿のこわ（強）清水遺跡と野塩の西原遺跡に竪穴式住居を造り住んでいた人々がいた。
それは何れも柳瀬川流域にあつて5kmほどの距離をおいてあつたが、こわ清水遺跡の
人たちは住居群のすぐ下にあつた「こわ清水」の湧き水を、野塩西原の人たちは遺跡か
ら約100m北側の柳瀬川のがけ下沿いにあつた弁天様の湧き水を飲んでいたのである。
狩猟を生業としていた彼らは獲物を見張るのに都合のよい場所で、飲料水に不自由のし
ない場所として選んだところであり、これが清瀬の人の水とのかかわりの嚆矢（こうし）
とされている天然の湧水であつた。清瀬の昔の小字（こあざ）で「清水」の地名のあつた
のはこの2ヶ所だけである。下宿のこわ清水は、「養老の滝」に似た「子は清水」の伝説
として残り、野塩の弁天清水は、かつてこの地にあつた素封家・森田家の屋敷地内の稲
荷社にとり込まれて残っていた。（旧森田家は下宿に移築され市の文化財として保存さ
れ活用されている。）

狭山丘陵の中に水源をもち関東ローム層を開削して流れてくる柳瀬川に沿つてある
遺跡群の集落は、河岸段丘沿いの湧水やローム層内に溜る水に依存していた上記のほか、
野塩・中里・下宿にあつた外山遺跡、山戸遺跡、田の上遺跡、内山遺跡等の人々であつ
たが、この地域は武蔵野台地一帯の中でも地下水位の浅いところとして知られていた。
この地域の地下水深度5m以内の宙水地帯にあつたので、同じ武蔵野台地上の他の地域
が水深20m前後の深井戸だったのと異なる。この浅い宙水帯の近くに住んでいた清瀬
の人たちにとっては、まさに砂漠の中のオアシス的存在の湧き水であつたのである。

キンラン、ギンラン、ササバギンラン (ラン科)

田中 くに子

例年は5月の連休頃、深緑に入ると、この3種の蘭が咲き始める。
今年は4月に暖かい日が続いたためか4月25日頃から花が咲き始めました。

キンラン (金蘭)

山野で丘陵の林下に生える多年草、茎は直立し高さ30~50cm。葉はたてにあらひひだがあり、基部で茎を抱く。茎の頂きに10個余の黄色い花がつく。がく片3、花弁3、がく片も黄色で花弁状。2個の側花弁はがく片とほぼ同じ形である。唇弁は後部が袋のような距(きょ)となる。中央の裂片には内側に赤い数条のうねがある。花が咲くと林下では背が高く目立ち美しい。



花期：4月~5月 分布：本州、四国、九州

ギンラン (銀蘭)

山地や丘陵の木陰に生える多年草、高さ10~25cm。葉は狭長楕円形で3~6枚が互生する。茎の先につく3~7個の白色の花は1cmほどでまるっこい感じで平開しない。がく片は披針形で長さ7~9mm、唇弁の基部は短く距となって外に突き出す。



花期：5月~6月 分布：本州、四国、九州

ササバギンラン (笹葉銀蘭)

山地や丘陵の林の中に生える多年草、高さ20~30cm位になりギンランより大きい。葉の長さが7~15cm、先が鋭くとがり、基部は茎を抱く、6~8枚の葉が互生する。

花は10個程短い穂になって、それぞれの花の下に苞葉があり、花のすぐ下にある苞葉は線形で大きく、花序よりも長い。花もギンランより大きく長さ1.3cmほどあり、最後まで半開きで終わる。唇弁の基部は距となり、やや突き出す。



花期：5月~6月 分布：北海道、本州、四国、九州

キンランは毎年出て来るが、上の2種は毎年はないか場所が違って出ても数が少ない。しかし、今年旭ヶ丘の林の中の狭い区域に足の踏み場もないほど混生、150~160本以上確認することが出来ました。しかも茎が10cm位でも葉は幅4cm長さ8cmの丸いしっかりしたもので自己PRしておりました。

毎日が日曜の有名人

中村 栄二

唐突で恐縮ながら、私は“極狭地域”限定の有名人であると自負している。

私が住む西武池袋線の秋津駅北口から、東方向へ徒歩 10 分程で、空堀川に架かる薬師橋に到着する。橋の正面突き当りに曹洞宗の名刹、大醫山・圓福寺がある。

開発の進む武蔵野の台地には珍しく、鬱蒼とした林に囲まれ、新緑の中に古びた伽藍(がらん)が、気高さや威厳を世に誇るかのようである。

入口の両脇には、巨大なブロンズ製の仁王像が向かい合い『葷酒(くんしゅ)山門に入るを許さず』とばかり凄まじい形相で頑張っている。

その薬師橋の下を流れる空堀川が、私の極狭地域限定の場所である。

熱烈な釣りマニアの私は天候不順、体調不良の日以外は 1 年中ほぼ毎日、釣竿を担いで出かけている。この場所をホームグラウンドと定めて、清流の小魚ヤマベの、釣り三昧の毎日である。冬の日、多くの釣り人が敬遠するような寒さでも、貼るカイロを幾つか身に付け、一人だけの川でヤマベと対峙し、静かにウキを眺め魚信を待つ。釣果の多少にとらわれぬこの時が私にとって最高の至福の時である。

天気のよい暖かい日和には、橋の欄干付近に近隣の年寄たちが集まり、退屈しのぎの話に花を咲かせている。恐らくは、釣れもしないのに毎日々々、よくも通ってくるものだ、私も話の肴になっているのだろう。

そんなことで街なかで思わぬ方から、釣りの小父さんと声を掛けられ驚いたことがある。年寄を中心とした狭い地域の中で、静かに話題になり染み渡っているらしい。

82 歳の年寄は毎日が日曜日である。することもなく、退屈な日々を過ごさずに済むのも、子供のころからの釣り好きが、歳と共にさらに嵩じて、少しばかり天候不良な日でも、雨具を着用、竿を担いで出かけなければ気がすまない。

そればかりか、釣るのが難しいとされる小魚ヤマベのために、ウキやハリ、糸はどのようなものを使用するか。またその日の天候、風の方向に関連した効果的な餌は。考え始めるときりがなほど工夫が必要となってくる。

ウキにしても市販の既製品では納得できず、自作をはじめようになった。天候不順な時こそそのチャンス。素材の大きさ、水中でのバランスと沈み具合、目立つ色の種類と模様など。工夫、制作、実釣の繰り返しが、尽きることなく毎日のごとく続いている。このように、張のある日々を過ごしている私だが、最近困った事態が続くようになった。季節が巡り夏が近づき、暑い日が続くようになると、近隣の少年らが集団で現れて、川に飛び込み泳ぎを始めた。驚いた清流の小魚ヤマベは、釣りの餌など啄(ついで)むことはない。微妙なウキのあたりを楽しんでいるのに、ヤマベからの魚信は全く途絶えてしまい。釣りどころではなくなってしまった。突然、釣りを妨害された腹立たしさから「こ

らこら、小父さんが釣りをしているのにそこで泳ぐ奴があるか。」大声を張り上げてみたものの、聞く耳もたぬとばかりはしゃぎ回り、挙句に聞こえぬ振りをしながら、私の方向に泳ぎの飛沫(しぶき)をかけ始めた。泣く子と地蔵には勝てぬの道理で、これでは竿をたたんで帰るより他に手立ては無くなってしまった。

以前私の古い友が小学6年の孫がテレビゲームに熱中して、休日などは一日中部屋に籠って出てこない。昔の子どものように鼻水を袖で拭いつつ、外で夢中になって遊び呆けることがないと嘆いていた。それなら釣りでも覚えさせればよいのにと、応じたのを覚えている。さらに、最近の多くの少年たちにこの傾向が強いと聞く。戸外で大勢の仲間たちとの遊びを知らない少年が増えているとか。そんな子供たちが創るであろう未来が、心に重く響く。比べれば空堀川で、はしゃいで泳ぎ遊び私に飛沫をかけている子供たちは、心身ともに健康で健全。少年らしい、明るい生活を過ごしているとい云えるだろう。子供の頃、無我夢中で遊んだ充足感は、将来の人間形成に不可欠な要素である。残念ながら私や多くの釣り人は、考えを変える必要がありそうだ。川は釣り専用ではない。少年たちが泳ぐ川。家族連れが水辺で戯れる川。老人がペットの犬と散歩する川でもある。

将来の日本を担う少年が、暗闇の部屋でテレビゲームに熱中した、不健康で貧苦な思い出だけだとしたら、その将来は暗澹たるものだろう。国の将来を思い休日は、川を君たちに譲ることにしよう。君たちが泳ぎにきたら、竿を納めて帰ることにする。未練はあるが年寄の私は毎日が日曜日だから。釣りをしながら、国の将来に心している私は、やはり極狭地域の有名人に相応しいのかも知れないと、自らを鼓舞している。

今日も静かにウキを見つめている。風のない穏やかな日和だ。

特別寄稿下さいました中村氏は会員ではありませんが、雨でない限り空堀川薬師橋の下、落差工が造る大きな淵で魚釣りを楽しんでいらっしやいます。最近その淵に子供たちの飛び込みや、泳ぎを制限するために石の入った大きな網袋をたくさん敷き詰め、子供たちが近寄らないようにしてしまいました。水量の少ない時は見栄えも悪く、橋の欄干に飛び込み禁止の看板を取り付けてから、飛び込む子供もなく、そこまでする必要があるのか疑問です。両護岸はそれ以来ひどく洗屈され、ごみ拾いや水質調査時護岸際を通る事ができず、大変不便です。中村氏も環境が変わり、魚(ほとんどオイカワ)が釣れないと嘆き、どこかに釣り場を変えられました。人が親しむことの出来る川を目指す私たちにとり、何とかよい改善策はないものか悩むところです。(文責:宮澤)

雑学（5回目）

田島 通夫

今日は、（4月16日）畑にきゅうりの棚を作ってきました。今、ベランダではきゅうりの苗が蔓を伸ばしているが、まだ寒さが来るとの予報で定植は先に延ばしています。

苗と言えば今、ベランダにはきゅうりを始めピーマン・ナス・トマト（大玉、中玉、ミニ）ニガウリ・いんげん・キャベツが定植待ちの状態、ほとんどの苗を種から育てています。苗を種から作るとなると結構大変な作業と温度管理が必要になります。発芽前は水を切らさない。発芽すれば外に出して陽を当てる。陽を当てなかったり、夕方苗に水をやると苗が徒長し弱い苗になってしまいます。

風が吹けば煽られて苗が痛むので急いで温室に戻すなどかなり気を使います。

今年もスタートは、2月上旬のトマトの種蒔きでした。

温室に入れ成長に合わせて大きなポットに移し、今では3号ポットで大きく育ちそろそろ花を持ちそうです。それぞれ畑の土づくりは終わっており、寒さが遠退くのを待っているところです。

さて、きゅうりに話を戻しましょう。きゅうりの原産地はインドとされ奈良時代に中国から渡来したと言われていています。

漢字では一般的に「胡瓜」と書きますが、黄瓜とか木瓜とか書かれる事もあります。胡瓜の「胡」は中国では異民族を指し特に西域の民族匈奴（北方の民族→モンゴル系）指します。

インド→モンゴル→中国→大和（日本）こんな渡来ルートでしょうか。

黄瓜とは、熟すと黄色になるからか？ きゅうりを齧ると夏の味……は昔の話で、今ではスーパーに行けばいつでも棚に沢山並べてあり、季節感はなくなりました。

畑では長い間収穫するために蒔き時をずらして栽培します。今、温室で育てているのが一番手で、私は2番手・3番手まで作ります。栽培方法にはいくつかの方法があり、一般的には棚を組んでネットを張り蔓を絡ませます。又、一株毎に支柱を立て結えて立ち上がらせる方法。又、地面に藁等を敷き這わせる地這栽培があるが、私は棚派です。

きゅうりも連作を嫌い、又、人参の跡地も嫌うらしく作る場所は注意が必要です。皆さんがこれを読む時のきゅうりは、大きく伸び、黄色い花（雄雌異花）をいっぱい咲かせ、実も下がっている頃です。



畑の仲間は30名位で、広い人は300坪(1,000㎡)狭い人でも20坪(70㎡)位を耕作しています。因みに私は約100坪(330㎡)です。この仲間で忘年会など親睦を図り、常時情報交換をし、お互い「いいとこ取り」して少しでも味良く沢山採れるよう研究(?)に余念がありません。(人により作り方が違いますから)何を何処に作るか。(連作を嫌う作物があるので図面を作り管理します)

いつ耕すか、元肥はどれか(作物により肥料を変えます)又、苗はいつ作るか。季節に合った種選び。例えば、ほうれん草はほぼ年間を通して作れますが季節に合わせて種を変えます。

種が芽を出した時のホッとした気持ち(失敗して蒔き直すこともしばしばあります)順調に成長する姿に単純な喜び。夜盗虫に苗を食い倒された時の落胆。アブラ虫がつきガックリ。収穫時の満足感。こんな生活を日々重ねています。

一方計画などで脳を刺激し、畑作業でいい汗を流す生活で元気をもらっています。

身近な野菜の原産地と伝来時期

種類	原産地	伝来時期
里芋	インド	縄文
大豆	中国	縄文
米(稲)	中国・インド	弥生
大麦・小麦	近東	弥生
大根	中国	奈良
人参	近東	奈良
ナス	インド	奈良
葱	中国	奈良
西瓜	アフリカ	室町
ジャガ芋	南米	室町
トマト	南米	室町
トウモロコシ	中米	室町
玉葱	中央アジア	室町
キャベツ	地中海沿岸	室町
ほうれん草	中央アジア	室町
白菜	中国	明治

※小松菜は、原産地は中国で、日本で改良に改良を重ね大変身、現在の姿になった。

川と温泉 ③ (玉川温泉)

木村 芳信

日本には、川の近くに温泉が数多くある。その中でも露天風呂(混浴)が好きで有る。今回は、秋田県の田沢湖上流に位置する玉川温泉です。玉川温泉は放射能を有しラジウム温泉の一種であり、その被曝量は岩盤浴で15・20ミリシーベルト/年とされている。ラジウム温泉には放射線ホルミシス効果があるのではないとも言われている。又「大噴」(おおぶけ)と呼ばれる湧出口から、塩酸を主成分とするpH1.05(日本で一番pHの数値が低い)の強酸性泉が毎分9,000リットル湧出する。単一の湧出口からの湧出量としては日本一を誇る。岩盤浴が出来る場所は、天然記念物に指定されている。産出される石は、北投石とよばれ、現在は採石が禁止されている。現在流通している石は、天然記念物指定前に採石された石か又は輸入品である。



私が行ったときは、あいにくの雨にも関わらず玉川温泉の駐車場が一杯で、立ち寄れなかった。仕方がないので、新玉川温泉に立ち寄ってきました。(源泉は玉川温泉、歩いて10分位)新玉川温泉は、500人程宿泊出来るホテルで、湯治客が多い。私は源泉50%と100%を体験してきました。50%では、分からない程度の擦り傷が源泉100%では、痛くて入っていただけませんでした。又入浴している人に声を掛けられませんでした。(保養の人か湯治客(ガンを患っている人)かどうか見分けられず声を掛けることが出来ませんでした。でも次は、泊まってゆっくり話が出来るといいな。



玉川温泉からでる強酸性の温泉水で、川にも魚が住めない。西湖でみつけた、田沢湖のまぼろしの魚クニマスを全滅させたのは、玉川温泉の温泉水です。早く里帰り出来るといいですね。(田沢湖の水質は、まだ目標値にたっていない)

三郷橋植栽地一年を経て

宮澤 とよ美

平成 24 年 3 月 10 日、氷雨降る大変寒い日、当会会員、第 4 中学の有志と先生、空掘川上流有志の皆様、中澤副市長、北々建西村課長、自然を守る会有志、総勢 50 名を超える方々で、エノキ 55 本、クヌギ 54 本、コナラ 3 本 計 112 本が植栽されました。

エノキ 55 本は会員の他、皆々様からの暖かいご寄付によります。クヌギは緑地公園課からいただきました。苗木の成長まで林床の日当たりはよく、間もなくたくさんの草本とクワ・イヌザクラ・ウワミズザクラ・ナンキンハゼ・エノキ・コブシ・エゴ・ゴンズイ・ヤマコウバシ等幼木が芽出し、クワ・ナンキンハゼは 1m を超え育っています。

24 年 5 月 11 日 第 1 回植生調査の結果、51 種の草本を確認。9 月 30 日調査で全 94 種。残念ながら廃土の盛り土により半数以上が外来種で占めますが、在来種シロザ・アカザ・オオジシバリ・ネジバナ・ツユクサなどが見られます。その他に新合流点 24 年度工事の草地より、コバノカモメズル・ツリガネニンジン・ヤブタバコを救出植栽、根付いています。又、空掘川のメハジキ種子 1 枝を蒔いたところ 4 本が芽出し、2 年草でありながら昨年秋霜の頃まで咲き続けました。一面のカラスノエンドウが 5 月下旬に枯れると、入れ替わるようにイネ科植物が地表を覆います。その中にワルナスビ・イチビ・ツボミオオバコ・オッタチカタバミ・コナスビ・ノミノツヅリ・ハイニシキソウ・ホウキギク・ヨウシュチョウセンアサガオ・マルバルコウソウ等次々と姿を現し、ものすごい草の勢いに時間さえあれば草刈に追われ、すかれ始めた 10 月、柵等にペンキ塗りをしてご協力下さいました大島氏に刈り払い機で草刈をしていただきました。

今春の芽出しが気になりましたが、エノキ 100% の根付きが確認。クヌギ 3 本が枯れました。エノキは枝先を様々な幼虫に食べられ、なかなか伸びることが出来ません。

初夏から秋にかけ、トンボ・バッタ・コウロギ・キリギリス・カメムシ・カマキリなど昆虫の大発生、横山氏と会員数名で昆虫調べをしましたが、なんと捕まえることの難しいこと。いずれにしても、ここで驚くほどの命が生まれている事は予想通りです。

水辺に近い緑地は、カモのねぐらでもあり、益々生態系の豊かさが期待されます。今春少し気になりますのは、昨年なかった帯化奇形がセイヨウタンポポが調査で見られたことです。経過観察をして行きましょう。5 月の今、まさにたくさんの蝶・蛾の幼虫・蓑虫が植栽木に付き、天敵も多い中それでも巣立ってゆく抜け殻がかなり見られます。



アカボシゴマダラ産卵



幼虫



さなぎ



抜け殻

第 15 回定例総会の報告

大谷 郁夫

4月27日(土)清瀬市民活動センターにおいて、川づくり・清瀬の会第15回総会が、大変お世話になります中澤副市長ご臨席の元、新メンバーを含む21名が参加、開催されました。総会では、前年度の活動実績報告及び平成25年度の事業計画、決算及び予算(案)等について諮られ審議の結果、各議案とも全員一致で承認された。

以下に総会の要点について報告致します。

24年度 事業報告

1. 河川環境保全の提言

河川改修に伴い、生態系を壊さず、緑化などいわゆる自然保護に配慮された工法を目途に、特に柳瀬川、空堀川新合流点の工事に対し、河畔林、天然護岸に配慮した施工提案を会の重点課題として掲げ、諸活動を行ってきた。その一環として、平成24年10月30日より平成25年3月29日までの間に、柳瀬川、空堀川をつなぐ新河川の左岸の護岸工事が行われた。平成25年度より引き続き、最終的な護岸工事に着手される見通しとなっている。

2. 良い河川環境・景観を目指した諸活動

良い河川環境・景観を目指した諸活動が行われており、毎年5月、6月及び7月に大きなイベントが続いており、会としても積極的に参加している。

(1) 「第5回環境フェア」に参加

第5回環境フェア(5月20日)では、柳瀬川に生息する魚を捕獲し、水槽に入れた魚の展示(ミニ水族館)や新合流点のパネル展示を行った。また、昨年に引き続き、スタンプラリーにも参加した。

(2) 「新河岸川流域・全国一斉水質調査」に参加

今後の水循環再生計画に繋げることを目的とした水質調査が全国展開で行われている。本年度も引き続き、6月3日に空堀川(中流:前原橋~下流:新合流点)及び柳瀬川(上流:日向橋~下流:水再生センター放流口)までを対象にした水質調査を実施した。(会誌18号に関連記事掲載)

(3) 「第5回きよせ川まつり」に参加

第5回川まつりが7月23日に柳瀬川で開催された。川まつりでは、子供達の川遊びをバックアップするとともに、柳瀬川の魚の展示(顕微鏡による川の微生物、生き物観察)や川遊び、ペットボトルによる筏コンテストなど様々なイベントに参加・協力を行った。

3. 調査研究及び講師を招いての勉強会

4. 「群馬県板倉町見学会」に参加

NPOエコシティー志木主催の群馬県・板倉町見学会が9月2日に開催された。板倉町は水場景観が国の重要文化的景観に関東として初めて選定された町である。特に有名なのは洪水対策のひとつとして「水塚」(みつか)がある。土盛りをして主屋よりも3~5m高い場所に建て、水害の時に人や家財、食料、家畜などを守る建物であり、「揚舟」(あげぶね)は、水害が発生した時点で舟を下して、住民や家畜、穀物等を水塚や近くの高台へ運ぶなど、多くの知恵が今に息づいているのを間近に見学することができた。

5. 河川の清掃作業

年2回の市内一斉清掃を含め、年6回の河川の清掃が行われた。特に、8月の柳瀬川の清掃では、社会福祉協議会からの体験ボランティア3名の参加を含む24名の参加があり、魚類調査と並行して実施された。

6. 植栽地(三郷橋横の三角地)維持管理作業

平成24年3月に三郷橋横の植栽地に、エノキ、クヌギ、コナラなど110本の植栽が行われ、その後、夏場での水やりや市民から譲り受けた物置による備品管理の準備作業が行われた。また、9月には昆虫観察会が行われた。

7. 他団体との係り

空堀川、柳瀬川の流域連絡会(東京都・北北建)への参加、新河岸川流域川づくり連絡会(荒川下流河川事務所)への参加及び埼玉県土・水辺再生交流会など、相互の情報交換会が随時開催された。

8. 会誌の発行及びホームページの開設

年3回(5月、9月、1月)の会誌を発行すると共に活動内容を関係各方面にPRすることを目的とした「ホームページ」を開設した。本ページでは、日常の活動内容紹介のほか、会誌の閲覧も可能となっている。(第15号以降閲覧可能)

25年度 事業計画

1. 新合流点の河川改修に伴い、河川環境を保全するための提言

- (1) 新柳瀬川改修工事に対し、旧川の環境保全、自然度を求めた改修を提案
- (2) 新河川用地の緑化を推進し、植栽木の樹種の提案
- (3) 柳瀬川旧川合流箇所魚道設置の申し入れ
- (4) せせらぎ公園につながる26年度工事着工予定の柳瀬川旧川(約6000㎡)の設計について、これまでの提言確認

2. 河川の樹木、市内の樹木の維持管理について提言

- (1) 市内、河川の緑化を推進し、樹形を保ちながらの剪定を求める

(2) 河川に係る樹木の維持管理に対して、4市流域連絡会の樹木維持管理ルールに従い、当会の確認時には立ち合いを求めることの徹底

3. 会誌の発行（年3回）（編集委員会）

4. きよせ環境・川まつりに参加協力

*温暖化抑制のための水と緑の役割、ミニ水族館、川のプランクトン観察、水質調査協力、川を知るためのクイズ及びパネル展示

*小・中学生による川遊び、魚などの捕獲体験、ボート遊び、筏コンテスト等への参加・協力（環境フェアではスタンプラリーに参加・協力）

5. きよせふれあいまつり及び活動センター行事に参加

*柳瀬川の魚の展示及び新合流点の新旧パネルの展示

6. 調査研究と学習会

*講師を招いての勉強会

*定点川の生き物調査と河川や植栽地の維持管理と植生調査

*柳瀬川流域・全国一斉水質調査に参加

*近隣河川の見学、河川を歩いて学ぼう

*各種シンポジウムへ参加

*いい川・いい川ワークショップに参加（11月）

7. 河川の清掃作業

*河川の清掃（4回）と外来種対策（オオブタクサ、セイバンモロコシ）

*5月、11月 市内一斉清掃に参加

8. エノキ、クヌギ、コナラ植栽地の維持管理作業

*下草刈り、定期的な植生調査と成長記録

9. 環境学習への係り

*サタデースクール・総合学習等、環境教育への係り

10. 会員相互の親睦

☆新年会（1月）、☆お花見（3月下旬または4月上旬）

11. 会の運営に係る活動

*総会 4月下旬

*幹事会 第1木曜日 午後1時30分より（市民活動センター）

◆他団体との係り

*河川の上・下流の河川環境を共に良くして行くために、下記の団体と協働、活動をして行きます。

*空堀川・柳瀬川流域連絡会（東京都北北建・流域4市）

*柳瀬川流域水循環市民懇談会（国土交通省・荒川下流工事事務所）
（流域の雨水浸透等による湧水確保と河川の豊かな自然環境の創出）

- *新河岸川水系環境連絡会団体会員「一斉水質調査と情報交換」
- *新河岸川流域川づくり連絡会への参加（荒川下流河川事務所）
- *清瀬ダイオキシン対策等市民協議会団体会員（加瀬静江、大谷恒子）
- *清瀬市民活動センター団体会員（加瀬静江）
- *柳瀬川流域ネットワーク団体会員（幹事：宮澤、正木）

25年度 活動予定

- 幹事会 毎月第1木曜日
- 市内一斉清掃（下宿・柳瀬川） 5月26日（日）
- 会誌20号 編集委員会 5月23日（木）
- 会誌・第20号印刷・発行 5月30日（木）
- 全国一斉水質調査（空堀川・柳瀬川）6月2日（日）*リハーサル5月30日
- 空堀川清掃 6月23日（日）
- 植栽地の維持管理作業と植生調査 7月1日（月）
- きよせ環境・川まつり 7月27日（土）
- 柳瀬川清掃 8月18日（日）
- 魚類調査（柳瀬川：台田） 9月1日（日）
- 市民活動展示会 9月下旬
- 会誌・第21号印刷・発行 9月下旬
- 植栽地の維持管理作業と植生調査 10月21日（月）
- 空堀川清掃 10月27日（日）
- 環境学習（4小） 10月下旬
- いい川・いい川ワークショップ 11月2日（土）～3日（日）
- きよせふれあいまつり（コミュニティープラザ）11月9日（土）
- 市内一斉清掃（下宿・柳瀬川）11月10日（日）
- 活動センター活動発表 11月中旬
- 新年会 1月上旬
- 会誌・第22号 印刷・発行 1月下旬
- 空堀川の清掃 3月上旬
- 清瀬ダイオキシン対策等市民協議会・幹事会 毎月・第2水曜日
- 空堀川、柳瀬川流域連絡会（東京都北北建） 毎月1回会議「立川」
- きよせ環境・川まつり実行委員会 毎月1回会議
- きよせふれあいまつり実行委員会 毎月1回会議
- 新河岸川水系環境連絡会 年2回程度

第 1 回講演会 「巷説下宿四方山譚」……講師：坂間和英氏

金内 彰

総会終了後、坂間和英氏の講演会が開催されました。今年度も齋藤隆雄氏が映像担当としてご一緒され、両氏には、23年度「清瀬の坂」・24年度「清瀬の川と道」そして今年度と3年連続講演をお願いいたしました。誠にありがとうございました。

さて、今年度は「巷説下宿四方山譚」です。講演内容を割愛して報告いたします。

1. 下宿の地価変動

昭和（戦後）に実施された、大型事業に伴う地価変動

事業名	年 度	1 反（300 坪）単価	1 坪単価
大林組技術研究所	昭和 35～36 年度	100 万円	3,000 円
旭ヶ丘団地	昭和 38～39 年度	300 万円	10,000 円
関越自動車道	昭和 41～42 年度	1,200 万円	40,000 円
武蔵野線	昭和 42～43 年度	1,500 万円	50,000 円
台田団地	昭和 45～46 年度	1,800 万円	60,000 円
水再生センター	昭和 48 年	6,000 万円	200,000 円

1)大林組技術研究所の地価購入価格は、当時の平均価格より相当低い価格であった。

2)水再生センターは、近在住民の反対が予想されたため、秘密裏に進行された。当時の平均地価より格段に高い価格だった。

2. 下宿の世帯数の変動

下宿は、川越藩の領地ではなく江戸幕府直轄領地であった。

1)幕末時代（天保 2 年）……世帯数 60 軒

2)10 年経過……世帯数 80 軒

3)現在の世帯数……1,000～1,200 世帯

3. 下宿の地名

1)幕末時代（天保 2 年）の地名……武蔵野国多摩郡清戸村下宿

2)講師坂間氏の生家の地名

……東京都北多摩郡清瀬村大字下宿字清戸下宿田之上 680 番地

その他、下宿の小字地名、下宿地内の古道の呼称、円通寺の由来等興味深いお話がありました。

最後に坂間氏から、清瀬の水路の記録復元と保存について次の提案がありました。

水田があったころの下宿には、柳瀬川から引き込んだ小川があり、網で「うなぎ」が取れる等魚たちも多種にわたり豊富であった。しかし、水田がなくなるのと並行して小川も消滅してしまった。下宿の水路は重要な役割をしてきたが、清瀬市にはその記録が残されていない。行政が動かないのならば、我々民間の力で記録復元と保存を行いたい。次の項目当会の協力を依頼されました。

- 1) 水車小屋の位置の復元（水車稼ぎ人）
- 2) 水田に水を引いた水路の復元
- 3) 城前橋に使用した渡し木の保存（八幡神社にある）
- 4) 強清水・舞台伝説の話
- 5) その他

毎回私たちの最も興味あふれる清瀬の歴史を講演賜り、両氏に心から御礼申し上げます。
今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

2012年度 活動記録（1月～3月）

- 1月11日(金) 第9回幹事会（環境・川まつりの1本化、新年会実施等）＊参加9名
- 1月13日(日) 植栽地の物置・鍵取り付け作業＊木村氏
- 1月14日(月) 新年会（トンシンジュ）＊中沢副市長、森田、斉藤、渋谷市議、早川
西倉、小西一、戸塚、田島、田中、加瀬、金内、木村、丸山、宮沢、大谷（2）
- 1月19日(土) 第四小学校公開授業2年生に河川の生き物について担当 宮澤
- 1月20日(日) 会誌編集作業（活動センター）＊金内、木村、宮沢、加瀬、大谷（恒）
- 1月22日(火) 第19号印刷・発行（活動センター）＊金内、加瀬、宮沢、大谷（2）
- 1月30日(水) きよせの環境・川まつり実行委員会 ＊宮澤
- 1月31日(木) ふれあいまつり実行委員会 ＊木村
- 2月2日(土) 野川ミニウオーク・第8回環境シンポジウム（国分寺駅ビルほか）
講師：吉村伸一先生 ＊宮澤、大谷（恒）
- 2月3日(日) 川の再生交流会（埼玉会館）＊宮澤、加瀬、大谷（恒）
- 2月4日(月) 川まつりの健全な運営について市へ申し入れ ＊宮澤・渋谷（の）・田中
- 2月5日(火) 24年度 水循環マスタープランフォローアップ 櫛ホール
＊戸塚・宮澤・田中・加瀬・森田(晴)
- 2月7日(木) 第10回幹事会（環境・川まつりの1本化、会誌感想等）＊参加7名
- 2月10日(日) 第8回川でつながる発表会（南大泉小）宮澤、田中、加瀬、大谷（恒）
- 2月12日(火) 川まつり第1回分科会(運営推進の為当会申し入れ)宮澤・田島・戸塚
- 2月14日(木) 柳瀬川・空堀川流域連絡会「御成橋右岸に桜植栽」宮澤・大谷・大島
- 2月15日(金) 北北建・空堀川樹木維持管理検討立会い ＊宮澤、加瀬、大谷（恒）
- 2月22日(金) 環境フェア・川まつり実行委員会 ＊宮澤
- 3月3日(日) 空堀川の清掃（柳原橋～梅坂橋～石田橋下流）＊田中（正）、松岡、
酒井、高田、加藤、須藤、関口、菅原、丸山、大江、戸塚、田島、宮澤
田中、木村、加瀬、大谷（2）
- 3月6日(水) 四市流域連絡会第6期最終回 宮澤・加瀬
- 3月7日(木) 第11回幹事会（川まつり、会誌20号、総会日程他）＊宮澤ほか7名

- 3月11日(月) 清瀬第三小学校環境学習3年生 宮澤・田中
3月14日(木) きよせの環境・川まつり「川遊び分科会」*金内・宮澤
(午後) 植栽地・物置内、棚の設営*金内、木村
3月17日(日) 植栽地・物置(会の備品移動作業)。花見の会文書作成・配布
*田島、加瀬、金内、木村、宮澤、大谷(2)
3月19日(火) 環境フェア・川まつり実行委員会 *宮澤・金内
3月22日(金) 北々建 新合流点工事25年度設計の確認と植樹の申し入れ *宮澤
3月24日(日) 臨時の空堀川清掃(ボーイスカウト参加)*酒井、松下、田中(正)
福本、木村、金内、宮澤、◇終了後、参加者皆でカタクリを鑑賞。

👉 事務局だより 👈

◎丸山会員に「新幹事」としてご協力いただくことになりました。

「新幹事」 ☆丸山 隆氏(中里1丁目在住)

◎「新会員」次の3名の方がご入会くださいました。どうぞよろしくお願いたします。

「新会員」 ☆鈴木隆司氏(野塩2丁目在住)

☆鈴木洋子氏(旭ヶ丘2丁目在住)

☆赤塚未来君(東久留米市在住・高校1年生)

👉 編集後記 👈

川づくり・清瀬の会の会誌20号も皆様のご協力により、無事完成致しました。
今号にも多様な投稿をいただきまして、誠にありがとうございました。

さて、7月27日(土)に開催されます「2013 きよせの環境・川まつり」のご案内を致します。昨年度まで5回にわたり、「環境フェア」と「きよせの川まつり」は単独で開催されました。6年目を迎えました今年度は、「きよせの環境・川まつり」の名称で、同時開催することになりました。今年度は、41団体が参加いたします大きなイベントとなります。当会といたしましても、川遊び(魚の捕獲体験、ボート遊び)やブースを設けまして、柳瀬川の魚たちの展示、河川と緑の効果のご案内等を行います。

ご家族、ご友人お誘いあわせのうえお越しく下さい。お待ち申し上げます。

川づくり・清瀬の会 事務局 大谷方
〒204-0004 東京都清瀬市野塩 1-156-5 401
電話(042)495-9052
Eメール irotani@live.jp
ホームページ <http://kawadukurikiyose.web.fc2.com/>